

# 【農業生産の振興（生産流通対策）】

## ～ 県オリジナル品種「あづましずく」産地化の取組み ～

### 1 地域の概要

郡山市熱海地区では、明治時代から果樹栽培が開始され、中でも日本ナシは100年以上の栽培の歴史を持つ県内有数の産地として知られてきた。

平成15年からは、経営安定化を図るため、ナシの品種構成の改善と併せて、他樹種との複合化による産地構造の改善を目指し、全国でも例のない「ナシ棚を活用したブドウ栽培」の検討が開始された。

平成16年度からは、ナシ園からの転換品目として、みずみずしくて皮ばなれが良いといった特徴を持つ県オリジナル品種のぶどう「あづましずく」の導入を進めている。

### 2 組織の概要

名 称：熱海支部ぶどう部会

組織構成：25名

設立年月日：平成20年5月23日

### 3 取組みの契機、内容

平成16年度より苗木導入を開始し、19年度には計570本に達した。

平成19年度に初出荷を農産物直売所「愛情館」で行ったが、消費者の評判も良好で、手応えを感じた生産者らによるぶどう部会の設立に繋がった。

平成20年度からは本格出荷に至り、8月23日には消費拡大を図るため「愛情館」で試食販売会を行い、多くの消費者で賑わった。

また、年々出荷量が増えていることから、JA全農郡山パッケージセンターを経由して、県内量販店への出荷にも至っている。



出荷前の目揃え会

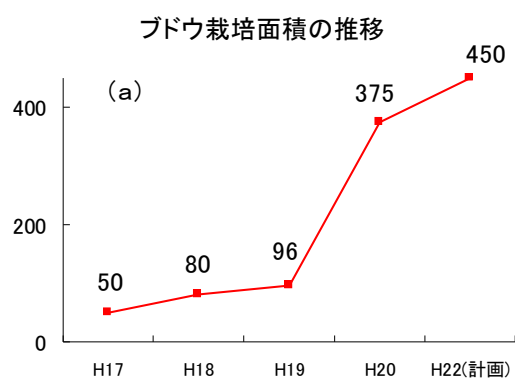
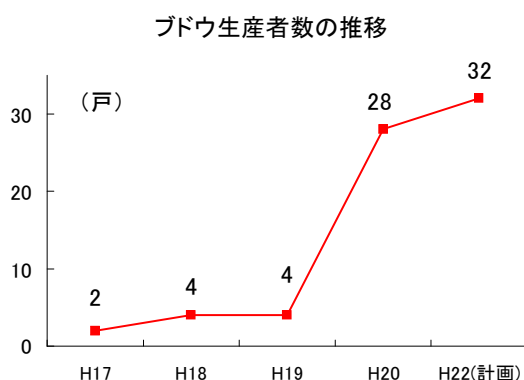


試食販売会

## 4 取組みの効果

従来8月末からのナシ出荷であったが、「あづましずく」導入により、8月のお盆過ぎから出荷が可能となり、生産者の所得向上に繋がった。また、晩生品種を取り入れたことにより、長期間販売することが可能となった。

生産者も取組み始めは数戸あったが、平成20年度は28戸へ、栽培面積も375aに増加し、今後も拡大が見込まれる。



## 5 国、地方公共団体等の施策支援との関わり

ぶどう部会を中心に、県、市などの各関係機関と連携を取りながら、指導会を開催している。

また、県中農林事務所農業振興普及部からは「あづましずく」の技術情報誌の発行等により、指導を受けている。



指導会

## 6 現在の問題点及び今後の改善方向

産地化に向けては、さらなる生産者の増加とぶどう部会活動の活発化、および生産者間の情報共有の取組みが必要である。

また、ぶどうは天候に左右される品目であることから、適切な農薬の散布及び適期作業に取り組んで行く必要がある。